

61 かわいい子には旅をさせよ

聞いて極楽見て地獄

63 聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥

64 雉も鳴かずば撃たれまい

65 九死に一生を得る

66 清水の舞台から飛び降りる

67 木を見て森を見ず

68 腐っても鯛

69 口は災いの元

70 苦しい時の神頼み

71 君子危うきに近寄らず

72 芸は身を助ける

73 犬猿の仲

74 喧嘩両成敗

75 光陰矢のごとし

76 後悔先に立たず

77 孝行のしたい時分に親は無し

78 郷に入っては郷に従え

79 弘法にも筆の誤り

80 弘法筆を選ばず

甘やかして育てるよりも、世の中でつらくて苦しい体験をさせたほうが、愛する子どものためになるということ。
人から話に聞いたものを実際に見てみると、聞いていたことと大きく違っていること。

知らないことを聞くことは、その時に恥をかくだけだが、知らないままだと一生恥ずかしい思いをすることになる。
鳴いたがために撃たれた雉のように、必要のないことをした結果、災難を招いてしまうこと。

まず助からないだろうという危険な状態から何とか助かること。
うまくいくかはわからないことでも、思い切って決断を下すことのたとえ。

物事の些細な事ばかり注意していると全体を見失うということ。
価値あるものは多少条件が悪くなくてもそれなりの価値はある。

自ら話したことが災いを招くこともあるので、余計な発言は慎んだ方がよい。
信じていない神様や、あまり付き合えない人などに、困った時だけ頼ろうとすること。

立派な人は、常に慎重に行動して、軽はずみなことはしないものなので、危険なことには初めから近寄らない。

身につけた技能はいざと言うときに役立つことがある。

犬と猿のように、二者の仲がとても悪いことのたとえ。

喧嘩をしたものは、どちらが悪いかに関係なく、どちらも同じように罰を与えるべきだということ。

月日がたつのがとても速いことのたとえ。また、時間を無駄にしてはいけないという戒め。

すでにしてしまった失敗を後で後悔しても取り返しがつかない。だから後悔しないように注意しなさい。

親のありがたみが解る頃には、すでに亡くなっているものだ。だから、親が元気なうちに孝行したほうが良い。

うまく世渡りするためには、その土地ごとの習慣に合わせて生活するのがよいということ。

どんなに優れた人物でも、失敗することはあるというたとえ。

優れた名人・達人は、道具のよしあしに関係なく立派な仕事をやるものだということ。